

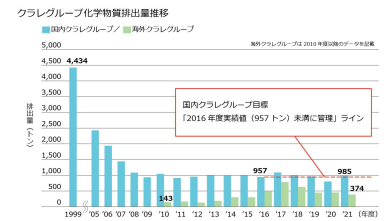
区分	物質名	対応
POPs	ポリ塩化ビフェニル (PCB)	PCB特措法（2027年無害化処理期限）に従って、保管・管理、報告、無害化処理中
	ダイオキシン類	事業所ごとに排出量測定（環境データ参照）
	上記以外	製造・使用していない
VOC HAP		PRTR物質に含まれるため、PRTR物質として排出量を測定、報告 （マテリアルフローで報告、事業所ごとの排出量は環境データ参照）
PM		ばいじん排出量をマテリアルフローで報告

区分	物質名	対応
	PRTR	法対象物質および日化協の指定物質について排出量を測定、報告 (マテリアルフローで報告、事業所ごとの排出量は環境データ参照)

国内クラレグループでは化学物質の排出削減のため2008年頃までに大規模な設備投資を行い、1999年に比べて約80%の排出量削減を実現しました。それ以降は、事業規模が拡大しても事業所外への排出量を増加させない、という考え方で、日化協PRTR物質※排出量の上限を定め管理を行っています。この目標を達成するため、設備の新增設に際しては、化学物質の排出量を増加させないための対策を投資内容に含めて検討・実施しています。2021年度は新型コロナウィルス感染症の影響から生産活動が回復したため、2020年度の805トンから大きく増加した985トンとなり、目標の957トン未満を超過する結果となりました。今後も引き続き、排出を増加させないよう対策を進めていきます。

海外クラレグループについては、各生産拠点が立地する国・地域の厳しい化学物質排出規制の遵守と定量管理を継続することを方針としています。2017年度までは事業編入、および、製造拠点の新增設等により排出量の総量は増加傾向にありましたが、一部の拠点において排ガス処理装置の増設、設備の運転管理の改善対策を実施し、2018年からは減少しています。2021年度の排出量は374トンとなりました。

※PRTR法対象物質および日化協指定物質



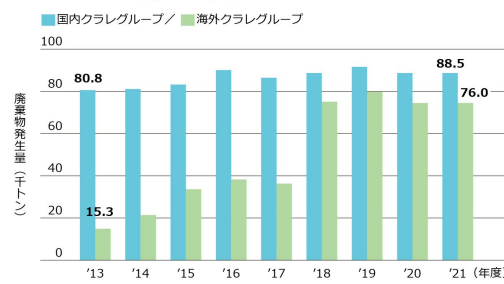
【ご注意】会計年度変更に伴い、本レポートにおける環境関連データはグラフも含め次の通りとなっています。  
・2013年度以前：4月-3月の12ヶ月実績  
・2014年度：4月-12月の9ヶ月実績+2014年1月-3月実績（または推定値）（2013年度と重複しています）  
・2015年度以降：1月-12月の12ヶ月実績

## 廃棄物の有効利用

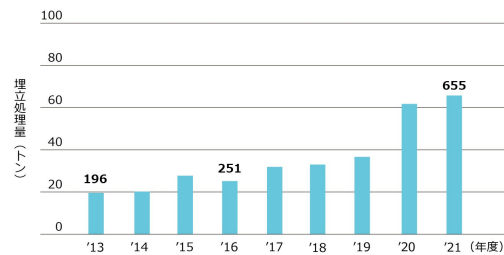
国内クラレグループの廃棄物発生量は2020年度と同じ88.5千トンでした。2021年度はコロナ影響を受けた2020年から生産活動が回復しましたが、各事業所、関係会社で製品収率の向上、廃棄物の分別、回収による再原料化など、廃棄物発生量を減らすための地道な対策を行ったことで、前年並みに抑えることができました。2021年度の廃棄物削減対策量は、収率改善の取り組みや回収・再使用の促進などにより、目標である900トン（2016年度発生量の1%相当分）を大きく上回る4,934トンを達成しました。また、発生した廃棄物のほとんどは、再資源化やエネルギー回収など有効利用に努めた結果、有効利用率は96.4%となりました。一方で、埋立処分量は655トン（埋立処分比率は0.7%）と前年度対比で増加し、目標の251トン（2016年度実績値）未満を達成することが出来ませんでした。これは一部の特別管理産業廃棄物で有効利用を行う処理委託先がなくなったこと、廃棄物の輸出規制により海外での廃プラスチックのリサイクル利用が困難になったこと、等によるものです。今後も廃棄物の発生削減対策を進めるとともに、有効利用できる委託先の探索を行い、埋立処分量の抑制にも努めます。

海外クラレグループの廃棄物発生量は、2014年にビニルアセテート事業、2018年に活性炭事業の買収により増加しましたが、それ以降はほぼ一定で推移しています。2021年度は前年に比べて生産量は増加しましたが、運転管理の改善による生産トラブル低減による廃棄物の発生抑制や、発生した廃棄物を回収し工場内で有効利用する取り組みなどにより、廃棄物発生量は前年とほぼ同じ76.0千トンになりました。各生産拠点では自国の法的要求事項を遵守するとともに、今後も引き続き削減対策に取り組んでいきます。

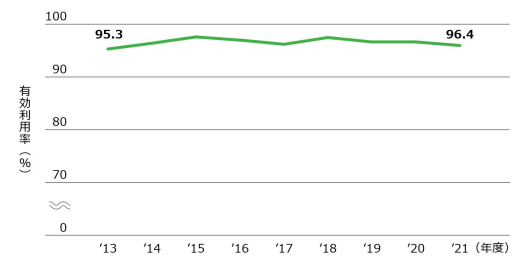
クラレグループ廃棄物発生量推移



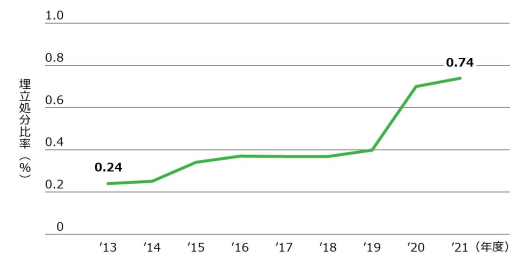
国内クラレグループ廃棄物埋立処分量推移



国内クラレグループ廃棄物有効利用率推移



国内クラレグループ廃棄物埋立処分比率推移



【ご注意】 会計年度変更に伴い、本レポートにおける環境関連データはグラフも含め次の通りとなっています。

- ・2013年度以前：4月-3月の12ヶ月実績
- ・2014年度：4月-12月の9ヶ月実績 + 2014年1月-3月実績（または推定値）（2013年度と重複しています）
- ・2015年度以降：1月-12月の12ヶ月実績

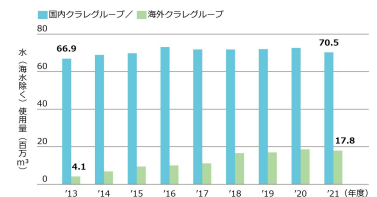
## 水資源の有効利用

クラレグループでは海外関係会社も含め、現時点では水資源が乏しく事業活動が水源に大きな影響を及ぼすような地域での生産活動は行っていないが、水資源は今後も大切な資源であると認識し事業活動を進めています。

国内クラレグループの2021年度の取水量（海水除く）は2020年度とほぼ同じ70.5百万m<sup>3</sup>でした。国内の各事業所は比較的水資源に恵まれた立地条件にはあるものの、地球温暖化に伴う気候変動の影響による渇水リスクなど長期的な水供給の見通しを考慮しながら事業活動を進めていく必要があると考えており、温排水の熱回収や冷却水のボイラー用水への再利用等の“水のリユース”を継続して行っています。今後も引き続き節水と水資源の有効利用に努めながら使用量のトレンドを追跡していきます。

海外クラレグループの水使用量は2014年度以降ビニルアセテート事業、活性炭事業などのM&Aによる事業編入等により増加しましたが、それ以降の使用量はほぼ一定しています。2021年度は対前年で生産量は増加しましたが、一部の拠点で排ガス処理設備として水を多く使用するウォータースクラバーから蓄熱燃焼式の設備に変更し、運用を改善することで水使用量を削減しました。その結果、水使用量は2020年をわずかに下回り17.8百万m<sup>3</sup>となりました。また、水（海水除く）原単位指数は対前年比9.5%の改善となり、目標である対前年比1%以上の向上を達成しました。

クラレグループ水（海水除く）使用量推移



【ご注意】 会計年度変更に伴い、本レポートにおける環境関連データはグラフも含め次の通りとなっています。

- ・2013年度以前：4月-3月の12ヶ月実績
- ・2014年度：4月-12月の9ヶ月実績 + 2014年1月-3月実績（または推定値）（2013年度と重複しています）
- ・2015年度以降：1月-12月の12ヶ月実績

生物多様性の保全

クラレグループでは地球温暖化対策、化学物質の排出管理、廃棄物の有効利用、水資源の有効利用を継続して行うことが生物多様性の保全につながると考えています。また「生物多様性の保全に係る活動方針」を制定し、生物多様性保全に貢献する活動、および、技術開発・製品販売を進めています。例として、自治体他と連携した森林保全活動や清掃活動、絶滅危惧種の保護、などに取り組んでいます（環境保全活動例を参照）。

環境保全活動例

倉敷事業所	・ 事業所内に「小鳥の森」と称するエリアを確保し、野鳥が住める環境を維持。 ・ 玉島の溜川公園清掃活動。（溜川公園には絶滅危惧種のダルマガエルが生息している。） ・ 瀬戸内海環境保全特別措置法を順守し、適切な排水管理を実施。
岡山事業所	・ 岡山県主催の児島湾清掃活動 ・ 岡山理科大付属高校のクラレ水源地における魚道テストへの協力。（旭川の絶滅危惧種ニホンウナギの資源保護を目的とする。）
西条事業所	・ 愛媛県環境保全協会、西条市地下水保全協会に参画
新潟事業所	・ 新潟県が推進する「企業の森づくり」に参加。 ・ 胎内市福祉協議会が主催する清掃活動に参加。
労働組合との共催	・ 富士山植樹活動
クラレアメリカ	・ NPOテキサス保全基金Texas Conservation Fund (TCF)を支援し、地元水路の清掃に参加。
エパールヨーロッパ	・ 「Operation Clean Sweep」ボランティアプログラムに参加。（プラスチックペレットの水系環境への流出による海洋ごみを防ぐために運営されている）

企業情報	製品情報	研究開発	サステナビリティ	投資家情報
会社概要	事業から探す	基本方針	企業ステートメント	経営方針
ごあいさつ	製品名から探す	技術と製品	クラレグループ行動規範	IRニュース
企業ステートメント	キーワードから探す	組織・体制	クラレグループ人権方針	クラレって？
役員	製品のはてな	歴史	トップステートメント	業績・財務情報
組織図		トピックス	サステナビリティ長期ビジョン・サステナビリティ中期計画	IRライブラリー
沿革			クラレグループのマテリアリティ	株式情報
主な受賞歴			Planet	IRカレンダー
主要グループ拠点			Product	よくあるご質問
会社案内動画			People	
テレビ番組動画			ガバナンス	
広告ギャラリー			GRIスタンダード対照表（内容索引）	
			クラレレポート（統合報告書） / サステナビリティウェブサイト	
			ランドセルは海を越えて	

